

大清水(コミュニティ食堂わらくなるみ)

毎月第3金曜日 16:30~18:30

10月17日(金)、施設長の倉持さんにお話を伺いました。平手交差点東側に住宅型有料老人ホームがあり、その施設内にコミュニティ食堂がオープンして3年になります。子どもばかりでなく大人も参加可能なので、コミュニティ食堂と名付けました。

地域へのお知らせは回覧板などで周知されています。子どもたちは部活などが始まると時間的に忙しくなっていくますので主に低学年、幼児を連れての親子の参加が見込まれます。取材当日のお客さんは、2組で小学生の姉弟と親子連れのご家族でした。私たちも食事前のふれあいタイムでテーブルゲームに参加しました。

毎回の食事はホームに入居されている方と同じもので、計算された献立で、分量、柔らかさなど十分に準備されたものが提供され、お代わりもOKでした。おなかも心も満たされました。

フードパントリーとして、食材の提供もされております。NPO むすびえ・緑区社会福祉協議会からの配分や地元コンビニからの協力で、毎月1回の回収で缶詰、飲み物、保存がきく食品などをいただくそうです。地域の中でこのようにあたたかいふれあいの場があることで、セーフティーネットにもなり、大切な活動であると改めて感じました。



月1回(不定期) 12:30~14:00
(受付は 13:30 まで) ※事前予約不要

鳴海東部(びよっ子食堂)

11月9日(日)、代表の服部さんにお話を伺いました。服部さんは里親家庭として子どもを預かっている経験から、子どもたちは食事をしていなかったり、スナック菓子しか食べていなかったりといった食の貧困を感じました。子どもたちを地域の眼で見る必要を感じ、地域の居場所として子ども食堂を立ち上げました。もっと食べる楽しみを持ってほしいと思っています。名前は、まだまだ生まれたてのびよっ子で、今後の伸びしろと初心を忘れないようにという思いから名付けました。

開催日は、スタッフとしてボランティアが50人ほど参加し準備をします。取材当日の利用者は102人でしたが、130人利用することもあるそうです。米は12kgを炊くとのことでした。



地元パン屋さんからパンの寄付があったり、畑で農作物を作っている方から野菜の寄付があったりします。当日のメニューは、カレーライス、総菜バイキング、サンドイッチ、サラダ、人形焼、ポップコーン、鬼まんじゅう、コーヒー、ゼリー、フルーツでした。ピュッフェ形式で各自お皿に好きなものを好きなだけ取り、最後にカレーライスを盛り付けてもらいました。大きな部屋で高齢者から子どもまでにぎやかに食事を楽しんでいました。

スタッフは笑顔で利用者を迎え、人のために尽くす事がわが喜びとなることを現場で学びます。また、障がい者の方々が気を使わないで食事ができる場を提供することを大切にしています。

神沢(SOMPO流 子ども食堂神沢)

毎月第4土曜日 12:30~

11月22日(土)、施設長の好岡さんにお話を伺いました。子どもへの食事を無料提供することを通じ、地域の方々の支援を目的とするとともに、介護付きホームを地域住民の多世代交流の拠点としています。高齢者と子どもたちの交流機会を生み出し、新たな形の地域共生を目指しています。

対象は中学生まで先着10名と保護者で、当日は子どもが10名ほど、大人が3名ほどの参加でした。

食事は関連の給食会社から届きます。ほかにも、地域の飲食店からシフォンケーキやピザの寄付をうけることもあります。当日のメニューは、チーズハンバーグ、じゃがバター、野菜のマリネ、桃ゼリーで、皆さん歓談しながらごやかに食事を楽しんでいました。食後は高齢者と子ども混合のチームを作り、室内バターゴルフを行いました。高得点が取れるたび歓声があがり、楽しそうでした。ビンゴやポッチャ、七夕飾りなどを行う日もあります。高齢者と子どもたちがお互いの名前を呼び合っていて、地域に根付いた活動としてしっかり定着していると感じました。



(共通) 開催日程は変更になる場合がございますのでご承知おきください。
お問い合わせは各食堂へ直接お願いします。